



TNVN network news

東京日本語ボランティア・ネットワーク

URL: <https://www.tnvn.jp/> E-mail: office@tnvn.jp

2024年
7月26日発行
No.122

目次

TNVN は電子版で再スタートします！……………1	活動事例報告 「いろどり」を対面活動で使いました……………4
紙上講座 Google マップさん！ お願いします！	定期活動報告 2024年度 TNVN 定期総会・情報交換会……………5
金子広幸……………2, 3	column 「いよいよデジタル版スタートですが」……………6



TNVN
ホームページ
QRコード

～ TNVN は誕生から 31 年目 ～

ニュースレターは **電子版** で再スタートします！

♥「代表」をボタンタッチして

林川 玲子

20年近く代表を務め、日本語ボランティア活動とともに TNVN を広めてくださった梶村勝利さんが、3年前、突然、天国に召されました。そして、TNVN 発足時に事務局を引き受け、ずっと守ってきた私が、やむを得ず2021年度から代表を引き受けることになりました。

ちょうどコロナ禍の真っただ中で、東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)のフリースペース(ロビー)には人影も見えず、スタッフの皆さんともメールでしかコミュニケーションがとれません。コロナ以前は、金曜日に TVAC のロビーに集まって、ワイワイガヤガヤおしゃべりしながら作業をしたり、運営委員会では、各地のボランティア日本語教室の活動状況などを報告したり、雑談など、顔の見える交流が開かれていました。しかし、活動がネット中心になると「ネットワーク」と名乗っていても活用されていたのは「ボランティア日本語教室ガイド」だけ。皆さんが見たいと思う、役に立つホームページをと、願っていました。そこに救世主のように現れたのが、鈴木恵司さんです。

実は、活動3年目のニュースレター(1996年12月号)には TNVN の URL とメールアドレスが掲載されています。鈴木代表、やっと夢を叶えてくださって、感謝しています。

♠ TNVN の代表になりました！

鈴木 恵司

この度、代表を拝命いたしました鈴木恵司です。皆様どうぞよろしくお願い致します。元々コンピュータ技術者だった私が、リタイア後に渋谷区の日本語ボランティア団体に関わるようになってはや10年が経ちました。また元代表の故梶村勝利さんに誘われて TNVN の運営委員になったのがつい4年前です。その後すぐにコロナ禍が始まってしまいましたが、TNVN はコロナを乗り越え昨年30周年を迎えました。時が経つのは本当に早いですね！

TNVN 誕生から30年、居住外国人の増加と多様化、日本人の少子高齢化、IT の劇的な進歩、コロナ禍等々、日本語ボランティアを取り巻く環境は激変しました。TNVN として会員の皆様に対し、どのような情報をどの様に提供すれば“真のネットワーク役”となれるのか？



私自身は日本語教育のプロではありませんが、この際そこを逆手にとって、会員の皆様のネットワーク作りにいろいろチャレンジしたいと思います。忌憚のないご意見、叱咤激励のほどどうぞよろしくお願い致します。

Google マップさん！ お願いします！

日本語教師 **金子広幸**

皆さんは Google Maps お使いでしょうか。Wi-Fi やインターネットの環境などがあればどこでも使えますね。外国から日本に遊びに来た人たちも、最近では不慣れな日本語で日本人に道を聞かなくても、これを見ながら目的地にたどり着くことができるようになりました。

日本語の教科書に「道を聞く」タスクがあった時代は、もう遠くなってしまったのかもしれないね。

「便利な時代になりました～」…などと言っている場合ではない！ これからのグローバル化を考えると、私はさらに、この「Google Map さん」や、それだけでなく、地図の編集の人々や街区表示を作ってくださいる人に申し上げたいことがあるんです！

カネコおじいさんの渋谷での経験を申しましょう。卒業生と会う予定があって、開発著しい渋谷駅からバスに乗ることになりました。停留所の名前は「菅刈小学校」。なんと読むのでしょうか。このバスがそこまで行くか聞くときに、読み方がわからないと聞くに聞けません。停留所で「はて？」と言っていましたよ。あちこち探してみても読み方は書いていないのです。東京の日本人が日本の渋谷で漢字の読み方に迷ってしまうことがあるんです。

その小学校の名前を一生懸命考えました。私の恩人には「菅野」と書いて「スガノ」と読む方がいるので、運転士さんに「スガカリ小学校…へ行きますよね？」と聞きました。ブブ～！…やっぱり私は言い間違えていました。「ス「ゲ」カリ小学校」だったので。

日本語で書かれた表示を、この日本語教師の私が間違えて読み、それを直されるという不思議な経験が、この日本ではあり得るのです。



一応確認してみようと思って、今まさにこの原稿を書いているときに、この小学校のホームページを開いてみてまたびっくり！ また「はて？」と言っしまいました。どこにも読み仮名が書いてないんです！ 一生懸命探したら、1 番下のほうにひらがなで書いてありました。「すげかりフレンドシップクラブ」… 日本人おじいさんカネコは やっとここで振り仮名にたどり着けたのです。

ここで違う視点から考えてみましょう。渋谷やこの近辺にお住まいの方には、きっとこの地名の読み方は常識なのでしょう。私はイケブクロ人、いわゆるガイジンなので、読めない。「僕たちには当たり前だから、振り仮名は振らなくてもいい」という感覚があるのでしょうか。まあ！ なんといい意地悪な！ 以前、「やさしい日本語」で災害のお知らせをしたら、それに対する批判が集まったことがありますが、ここにも同じ感覚があるのかもしれない。

東京の人にお尋ねしましょう。大阪の駅名「放出」「野江内代」「喜連瓜破」を「ほうしゅつ」「のえうちよ」「きーれんかっぱ」などと読んでいませんか？ 「はなてん」「のえうちんだい」「きれうりわり」と読むのですよ。「地名や人名は、特別だから」と日本人はよく言っていますが、だとしたら、誰にでも読めるように振り仮名を振りませんか？ 「それが文化だ」と言うのなら。それならガイジンさんにも親切です。

お隣の韓国語や中国語ではそういうことはあまり起こりません。韓国語は音を表す字母を組み合わせて作るハングルですし、中国語だと、1つの漢字にいくつかの読み方があることもあります。これらは極めて限定的で、一般の教育を受けている人なら、通常使う漢字で書かれている地名を読み間違えることはほとんどありません。アルファベットを使っている人たちも、それはきっと同じだと思います。でも、少なくとも日本人が読めない日本語が日本にはある可能性があるんですね。

最近はその「特異な現象」に気がついた地図の会社の人が、地図の中の地名表記に振り仮名をつけてくれています。もちろんとても良くなってきたと感謝する次第ですが、地図ってそもそもその土地に不慣れな人が見る可能性が高いんですよ？！もっと早くから読み仮名がついていてもよかったのでは？しかも実はまだ不十分で、「町」を「ちょう」と読むか「まち」と読むか書かれていないこともしょっちゅうです。

それなら、ローマ字の出番だと思われるかもしれませんね。

外国の人が持っているスマホの「Google Map さん」に表示される日本の地名は、ローマ字で書かれているので、なんとなく音の確認はできるというわけです。(日本のバージョンのスマホには表示されません)だからこそ、外国人市民が頼りにしているのが「Google Map さん」なんです。

ただですね、これも以前の号に書かせていただきましたが、長音をどのように表示するのか、未だ確定的な方針が出ていません。「神保町」を Jimbocho とするか Jimbouchou とするか Jimbōcho や Jimbōchō とするか、いろいろなバリエーションがあって、日本語社会は模索中。

また、せっかく地名がローマ字で書いてあっても、肝心の漢字表記がなくて、街を歩いていて、出会った漢字地名がどのように読まれるのかを特定する

のは結構大変なことなんです。

ローマ字の横に漢字表記を！そして、振り仮名を振ってください！と申し上げたいのです。

これは、日本に来ている外国人市民の問題だけではありませんよ。

私にこれが気になったのは、自分が外国人の立場に立った時でした。

例えば、私が台湾の台北に行くと、同じように外国人用の「Google Map さん」が使えるのですが、中国語で地名・施設の検索はできるものの、なぜか台湾の漢字の地名がローマ字表記で出てしまうのです。

「民権西路」に行きたいと思っても、そこに『MIN—CHUAN West Rd』などと書いてあって、中国語に不慣れな人だったら、「MIN—CHUAN」の部分が「民権」に当たるのがわからないと思います。日本の中国語学習者がよく使う中国のローマ字、拼音(ピンイン)とは違う綴り(Mínquánが拼音では正しい綴りです)になっていたりして、中国語を使う私でさえ、いつも目をパチクリさせてしまうんです。

「Google Map さん」

いつもお世話になっております！お手数ではございますが、地名の横にその地域で使われている文字の表記を添えてくださいますか？読み方を添えて。本当にお手数ですが…

私たち日本語の社会の者も、島国根性でなく、広い視野で漢字の読みの表示を考えるようにしますので。



「いろどり」を対面活動で使いました



TNVN では、2022年度2023年度と、オンライン研修会で具体的な活動例を紹介してきました。

ネットワークニュースがデジタル化したのに伴い、江東区の日本語教室「やさしい日本語」でオンライン教材《いろどり》(国際交流基金)を対面活動で使った例を、Q&A 形式で編集部がまとめました。ボランティアの S さんは週に一度当教室で日本語ボランティアをしていて、日本語学校でも教えているプロの方です。現在の担当学習者は日本に長く在住している中国男性 T さん。日常会話にあまり不自由はしないが、日本人と話したいからと通っています。

(参照 [TOP | いろどり 生活の日本語 \(jpf.go.jp\)](#))

Q1

「いろどり 初級2」を、T さんと学習したとのことですが、タブレットやスマホを見ながらの学習ですか？「パルシティ江東(注:教室がある施設)」はWi-Fiが1階のロビーにしかありませんが、オンライン教材を3階の教室でどのように利用しましたか？

A1

使用ツールは二つです。

- ① スマホやタブレット: 自宅のWi-Fiが必要な資料をダウンロードしてから教室で使用します。
- ② 紙のテキスト: 今は学習者が1名だけなのでタブレットのみ使用。ただし、学習者が増えたら各国語版の紙のテキストを用意する可能性もあります。

今後は可能であれば学習者のタブレットやスマホに学習する課のみを事前にダウンロードするようにお願いするかもしれません。

※ただし「いろどり」は「聞いて書く」活動が多いため、紙のテキストや授業プリントがあったほうが楽です。

Q2

「いろどり」は語彙や会話等の音声がついています。音声を利用しましたか？

A2

時間に限りがあり、音声を聴く以外の活動に時間を費やしたいので、教室では基本的に音声を再生することはありません。どうしても音声が必要だったら音声をスマホで流すか、各課の後方にあるスクリプトを私が読み上げます。

工夫すれば音声を使わなくても活動が可能だと思います。

Q3

では、実際の活動を紹介してください。

A3

「いろどり」には、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4つの活動がありますが、教室では主に「話す」活動を使用しています。

私が行った「いろどり」初級2 第9課の3「田舎に帰って家族でお祝いします」の場合を例に挙げます。私のタブレット1台だけを使いました。

(参照 [Z_L09.pdf \(jpf.go.jp\)](#))

この課の行動目標(Can-do)は<自分の国の祭りや行事について、簡単に紹介することができる>です。

【1】ことばの準備: 学習者のレベルや状況に合わせて、私が読み上げて復唱してもらいます。

【2】会話を聞きましょう: T さんとの授業では、音声は使わず、会話をしながら T さんに答えを予測してもらい、正しい答えを伝えました。

【3】祭りや行事について話しましょう: T さんとの授業では、音声は使わず会話文を読んでもらい、その後私が中国の祭りや行事について質問し、教科書の会話文を参考に T さんに答えてもらいました。

「いろどり」は、「課題遂行型」で基本的な日本語のコミュニケーション力を身につけるための教材なので、行動目標(Can-do)が達成できたかどうかを私は重視しています。

ですから、目標を達成するために必要な言葉や祭りのイメージを【1】【2】で学習し、いくつかの文型は勉強しますが、【1】【2】やこの課で出てくる文型を使わなくても自分の国の祭りや行事について話すことができればOK!としています。

従って、行動目標(Can-do)の為に音声は必ずしも必要ではないと思っています。

編集部: S さん、具体的な活動報告ありがとうございました。
(文責: 岡田)

2024年度 TNVN 定期総会を開催しました

●第31回定期総会報告

5月26日(日)、TVAC(東京ボランティア・市民活動センター)会議室にて13時半から15時半まで、TNVN 2024年度の総会を開催しました。コロナでオンラインでの総会が続きましたが、5年ぶりに対面で開くことができました。現正会員84団体中、当日出席が17団体、委任状提出が34団体の計51団体の議決権総数が会員の過半数でしたので、規約7条7項の規定により、総会は成立し、議案は全て承認されました。

第5号議案の活動計画では、年3回紙媒体で発行していたTNVN network newsの122号から電子版で配信することとしました。印刷費もさることながら、昨今の送料大幅値上げもその理由です。配信方法としてはTNVNのホームページ上に掲載します。また、ホームページの一部をパスワードをかけ、会員限定でアクセスできるようにし、講演会や研修会等の資料を閲覧できるようにします。

※第3号議案の規約改正につきましては、議案は承認されましたが「役員会が規約に定義されていない」というご指摘を受けました。これについては運営委員会で検討することに致します。

●情報・意見交換会

総会に引き続き、15時半から16時半まで会員団体の交流を兼ねて意見交換会をしました。参加者は3つのグループに分かれて5~6人でそれぞれ話し合い、またメンバーを入れ替えて新グループで活発な意見交換ができました。各団体の悩みや共通の問題点などが話し合われ、他の会員からヒントをもらうなど手応えを感じることができました。このような会員団体間の交流会は、今後はより参加しやすいオンラインでの情報・意見交換会を計画しておりますので是非ご参加下さい。



2024年度 TNVN 定期総会の様子

●2024年度講演会のお知らせ

2024年10月19日(土) 午後2時に文科省総合教育政策局日本語教育課の北村祐人氏をお招きしてオンライン講演会を開催する予定です。「日本語教育・政策に関する最新の状況」をお話していただきます。ご期待下さい。

●2024年度役員・運営委員・スタッフ

◎役員

代表	鈴木 恵司<新任>	スペース・アイ (渋谷区)
副代表	山形美保子<留任>	LTC友の会 (杉並区)
会計	矢崎 理恵<留任>	社会福祉法人さぼうと21 (品川区)
	岡田美奈子<留任>	やさしい日本語 (江東区)
監査	山内 真理<留任>	多摩市国際交流センター日本語セミナー部 (多摩市)

◎運営委員

片岡 典子<留任>	にほんごクラブ・ゆう (江戸川区)
坂本 弘一<留任>	かけはし (足立区)
天坊 千明<留任>	にほんご学習すぎなみの会 (杉並区)
中村三千子<留任>	ちよだ日本語カフェ「Swan」 (千代田区)
中山真理子<留任>	NPO法人多文化こども自立支援センター (中野区)
西堀 孝文<新任>	八王子にほんごの会 (八王子市)
仁村 謙子<留任>	NPO法人IWC国際市民の会 (品川区)
渡辺 紀子<留任>	まちだ地域国際交流協会 (町田市)

◎スタッフ

林川玲子	ビバ日本語教室 (港区)
小林 薫	日本語サークル「わかば」 (世田谷区)
松川彩子	やさしい日本語 (江東区)
大滝敦史	在宅 (HP管理を担当)

column

「いよいよデジタル版スタートですが」

TNVN network news(以降 TNVN news と略)122号デジタル版第一号がいよいよスタートします。会員の皆様へのお知らせが、より早く、容易に、広範囲に届きます。これまで、会員団体に各号約10部ずつしかお届けできなかった TNVN news が、会員団体内ボランティア/学習支援者さん方にもお届けできるはず。その分、編集にはこれまで以上に技術と手間がかかるのでは、と案じていますが。

デジタル版は人手、経費の点で、ボランティア団体には有難いです。

実際のところ、これまでと何が違ってくるのでしょうか？

発行お知らせのメールと、手渡/郵便受に届く TNVN news(紙)。

メール受信は機器の中の一行、毎日受け取るメールの一通ですが、紙での受け取りは、実体のあるものの受領です。

当然受け取った「実感」があります。デジタル版との違いは、それだけですが、それが大切です。

私の手元に、TNVN news55号(2006年)~121号迄があります。これまで、受け取るとまずざっと見て、表紙左縁中央に2穴を開け、黒綴じ紐でとじておきます。すぐに読みたい記事がなくても、そのうち必要になるからです。

TNVN news(長年8頁仕上がり)のコンテンツは、多方面にわたります。

巻頭頁で、日本語を取り巻く行政の施策や方向を知ったり、他頁で関連団体方々のご意見、他地域の日本語教室の活動等を知ることができます。

この紐で綴じられた TNVN news の束が、私のデータブックです。(勿論、金子先生の紙上講座は、長年の「推し」です。)

デジタル送信でも、紙でも、内容に変わりはありません。届き方の違いだけです。受け取る側に、デジタルでは、ネット情報として見て通り過ぎてしまいがちですが、紙冊子なら、ゆっくり読む時間の余裕があるように感じます。紙面に余白があれば下線引きや、メモ書きもできます。その分、長く記憶に留まってくれそうです。

また、他所で TNVN や記事内容を紹介説明する時、「TNVNnews 紙」があると、双方、理解しやすかったこともありました。

(今後も届いてから、印刷して手元に置くようにするつもりです。)

これまで同様 TNVN network news が、会員皆様に身近で、お役にたつよう、応援していけたら、と思っております。(山内 真理)

～編集後記～ ●TNVN から

今回は「江東区:やさしい日本語」での活動例を掲載しましたが、皆様の教室ではどのような活動をなさっていますか？ 決まったテキストを使わない例、文科省の「つなひろ」を使う例、ボランティア教室には不向きだという声を聞きながらも文型積み上げ型テキストを使っている例などなど、具体的な活動例をお寄せくださるようお願いいたします。



東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会員からいただく会費で運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えます。メールでお問合わせください。

*対面でのご相談にもお応えします。
ご希望の方は、以下メールで御予約の上、おいください。

日時:毎週金曜日午後2時~4時
(祭日休み)

場所:東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口 B2b)
飯田橋駅下車
セントラルプラザ 10F ロビー

◆郵送先
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆E-mail: office@tnvn.jp
◆ホームページ: <https://www.tnvn.jp>
◆郵便払込
口座番号:00100-1-719259
加入者名:東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員(2024年7月26日現在)
正会員:84団体
個人協力会員:16名
賛助会員:4団体

◆編集/岡田美奈子、鈴木恵司、林川玲子、山内真理、山形美保子

「感想を是非、お寄せください」
<https://forms.gle/rgxR7ZhsHJnATpWy7>



122号アンケート ▶